

京都府漁海況情報

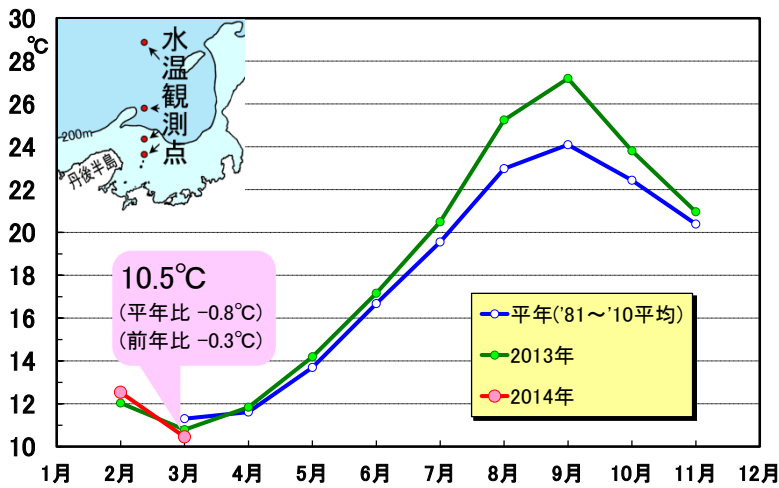
海の状況

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

【現況】

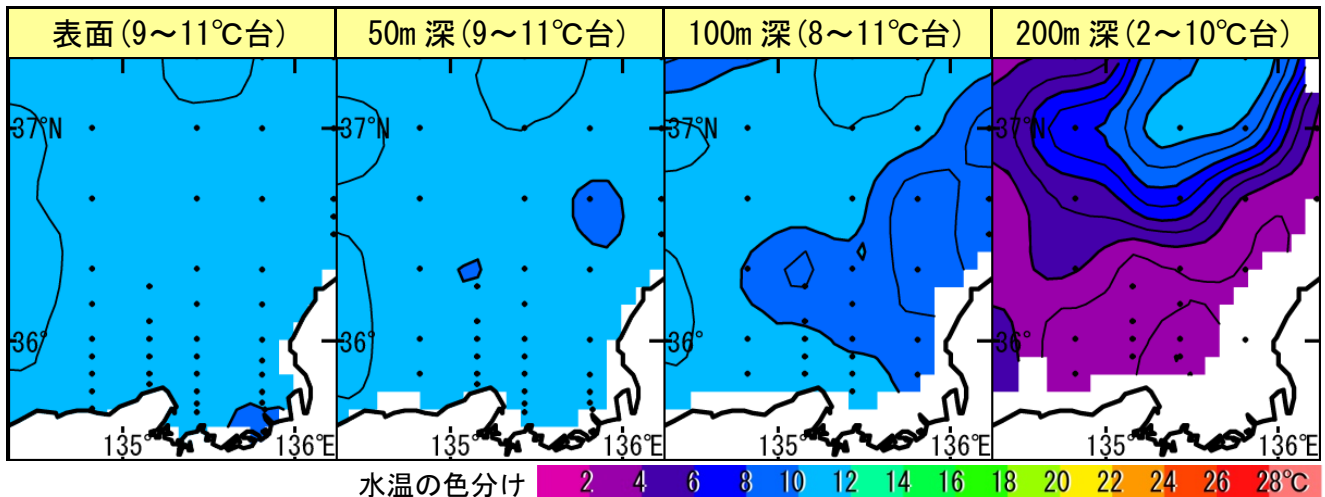
3月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年よりやや低めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2014年3月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：気象庁, (独)日本海区水産研究所

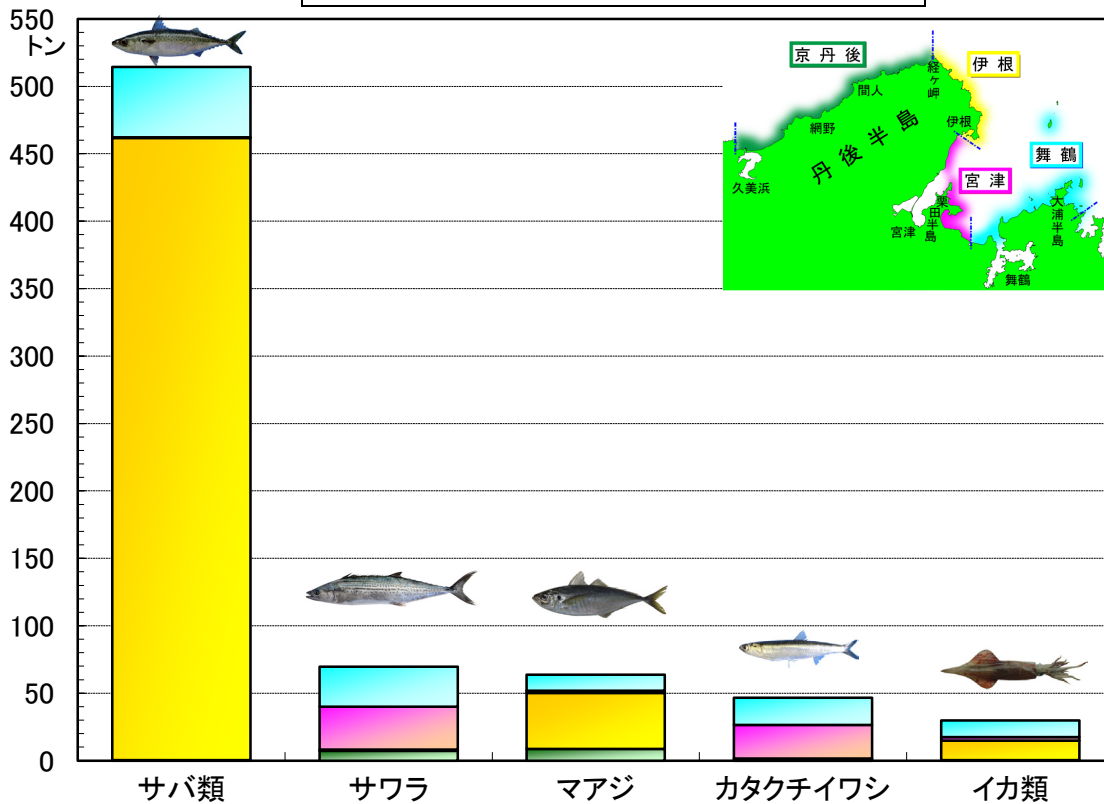
向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年よりやや低め」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並み」で推移する見込み

漁模様 ～2014年2月～

【定置網漁業】

サバ類が豊漁でした。全体の水揚量は、前年の3.6倍および平年の2倍でした。

2014年2月の地域別漁獲量(上位5魚種)



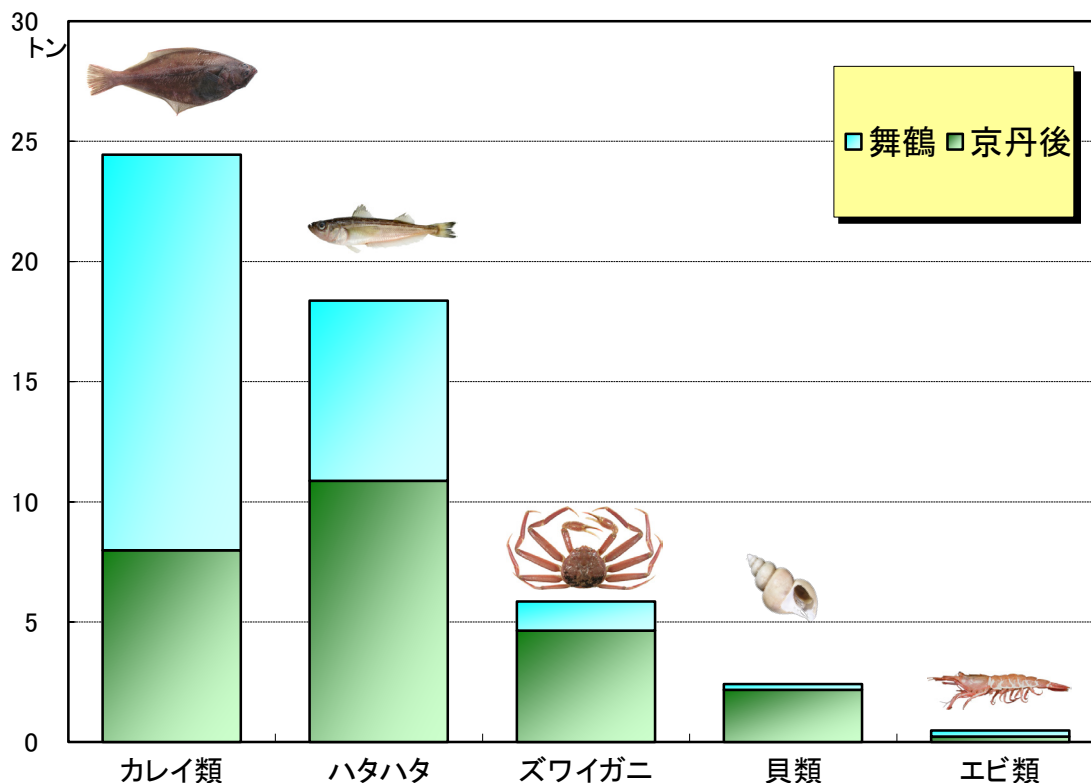
2月漁獲量(トン) 京都府漁協集計				
魚種	2014年	2013年(前年比)	平年(平年比)	備考
サバ類	514.3	1.9 (27754%)	84.3 (610%)	<サバ類> 尾さ長 20～30cm の小型魚が主体でした。 <サワラ> さごし銘柄(尾さ長 42～53cm 主体)が7割弱, より大型のさわら銘柄は3割強でした。 <イカ類> ヤリイカ(冬いか)が23.4トン, スルメイカが3.4トン, ケンサキイカ(白いか)が1.8トンなどでした。
サワラ	69.7	67.3 (104%)	55.5 (126%)	
マアジ	63.8	7.1 (899%)	78.9 (81%)	
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	46.7	39.7 (118%)	56.1 (83%)	
イカ類	29.9	23.4 (128%)	23.7 (126%)	
マグロ類	16.0	2.3 (706%)	7.0 (228%)	
ウマヅラハギ <small>(長はぎ)</small>	8.9	3.8 (234%)	9.3 (96%)	
カナガシラ	8.7	11.7 (75%)	12.7 (69%)	
スズキ	6.5	5.5 (118%)	4.9 (132%)	
マルアジ <small>(青あじ)</small>	4.7	13.5 (35%)	9.0 (52%)	
その他	38.0	47.7 (80%)	59.8 (64%)	
合計	807.1	223.7 (361%)	401.3 (201%)	

平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

全体の水揚げ量は、前年の9割弱および平年の6割弱とやや少漁でした。

2014年2月の漁獲量(上位5魚種)

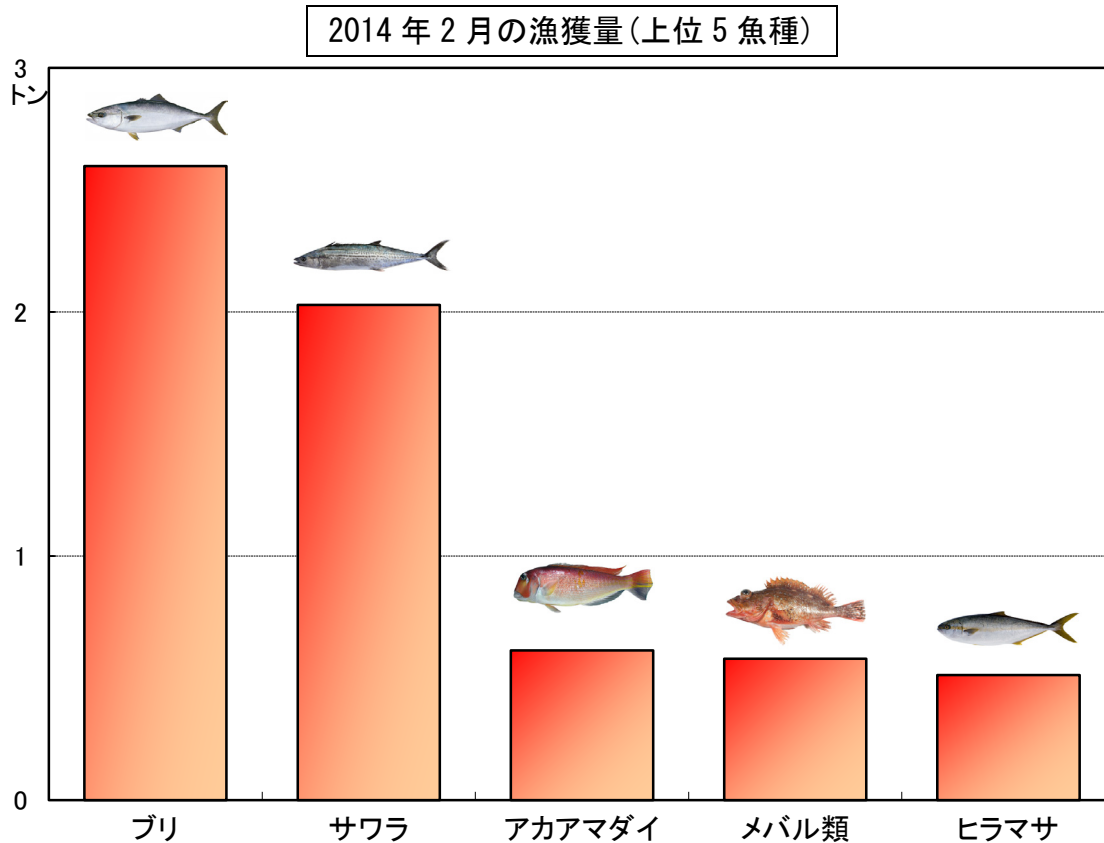


2月漁獲量(トン) 京都府漁協集計				
魚種	2014年	2013年(前年比)	平年(平年比)	備考
カレイ類	24.4	28.5 (86%)	38.5 (64%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が 20.7 トン、ヒレグロ(黒がれい)が 1.9 トン、ソウハチ(えてがれい)が 1.7トンなどでした。
ハタハタ	18.4	23.6 (78%)	39.6 (46%)	
ズワイガニ(オス)	5.9	4.2 (140%)	9.7 (60%)	
貝類	2.4	1.4 (176%)	1.3 (180%)	
エビ類	0.5	0.5 (101%)	0.7 (67%)	
タコ類	0.5	0.5 (100%)	1.1 (43%)	
スズキ	0.4	0.2 (194%)	0.2 (180%)	
ヒラメ	0.2	0.3 (78%)	0.2 (124%)	
タラ類	0.2	0.3 (53%)	0.2 (100%)	
ニギス(沖きす)	0.2	0.3 (53%)	0.9 (17%)	
その他	1.1	2.1 (51%)	3.6 (30%)	
合計	54.1	61.8 (88%)	96.1 (56%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、前年の 1.3 倍および平年の 7 割でした。



2 月漁獲量(トン) 京都府漁協集計					
魚 種	2014 年	2013 年(前年比)	平年(平年比)	備 考	
ブリ	2.6	0.8 (340%)	3.8 (69%)	<ブリ> つばす銘柄が 5 割, まるご銘柄 が 3 割強, はまち銘柄とぶり銘柄 が若干量でした。 <サワラ> さごし銘柄が 9 割, より大型のさ わら銘柄は 1 割でした。 <タイ類> マダイが 8 割, キダイ(レンコダ イ)が 2 割弱, クロダイとチダイが 若干量でした。 <イカ類> ヤリイカ(冬いか)が 0.2 トンなど でした。	
サワラ	2.0	1.4 (143%)	2.1 (96%)		
アカアマダイ(ぐじ)	0.6	1.1 (54%)	1.0 (64%)		
メバル類(もいお)	0.6	0.7 (80%)	0.7 (89%)		
ヒラマサ	0.5	0.1 (950%)	— —		
タイ類	0.5	0.4 (117%)	0.8 (58%)		
イカ類	0.3	0.4 (70%)	0.5 (46%)		
ヒラメ	0.2	— —	0.2 (95%)		
マルアジ(青あじ)	0.1	0.2 (77%)	0.3 (44%)		
カレイ類	0.1	0.1 (134%)	0.1 (75%)		
その他	0.5	0.8 (62%)	1.8 (28%)		
合計	8.0	6.0 (134%)	11.4 (71%)		

平年は過去 10 年平均

【今冬好漁だった魚】

丹後の定置網では2014年の年明け以降にクロマグロ、2月中旬～3月上旬にサバ類がまとまって水揚げされました。

<クロマグロ>

今年1月～2月のクロマグロ漁獲量は、平年同期比2.4倍の48トンでした（京都府漁協調べ）。なかには、体重100kgを超える大物も水揚げされたようですが、漁獲の主体は体重3～4kg級の未成魚（よこわ銘柄）でした。

よこわは、順調に成長すれば1年後には体重10kg程度、4年後には体重50kg以上になります。

よこわが大物に成長して、数年後に丹後の海で豊漁になることを期待したいと思います。



魚市場に水揚げされたクロマグロ(2014年1月23日 舞鶴市)

<サバ類>

今年2月の水揚げは平年同月比6.1倍の514トンで、1990年以降の同月で最も多かった2006年の578トンに次ぐ量でした。

魚体の大きさは、尾さ長で20cm～30cmの小型魚が中心でした。

特に水揚げが多かった伊根町の定置網では、漁労作業に朝から晩まで要した日もあったようです。



サバの出荷風景。この日の水揚げは、約600kg分の魚を収容できる大きな箱(写真手前)で150杯分以上あったようです。(2014年2月25日 伊根町)

なお、現状ではサバ類の資源水準は低く、増加の傾向もみられません(水産総合研究センター調べ)。よって、今回のサバ好漁は一時的な現象かもしれませんが、今後の動向が注目されます。